

〔平成21年7月10日（金）〕

# 美しい森林づくりニュース 〈NO. 138〉

～ 伝えたい木の文化、残したい美しい森 ～



発信元：林野庁 研究・保全課 森林環境保全班 企画調整係 山口  
Tel：03-3502-8111（内線6216）03-3501-3845（直通）Fax：03-3502-2887

ご意見、ご質問は → <https://www.contact.maff.go.jp/rinya/form/5dd6.html>

バックナンバーは → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/news.html>

## ◎ 第3回「美しい森林づくり全国推進会議」（第2報）

先号より「美しい森林づくり全国推進会議」における出席者の発言を報告しているところですが、今回は、石破農林水産大臣の来賓挨拶、発起人等の取組として第48代横綱大鵬の納谷幸喜氏、服部幸應氏（服部栄養専門学校校長、医学博士）からの挨拶（要旨）をご紹介します。



多くの参加者に森林づくりをお願いする石破大臣

### ◇石破農林水産大臣挨拶

日本の国土の2/3は森林で、これは、世界でも有数の面積です。けれども、なぜか森というのは、国民から遠いところにあるような気がします。

林間学校って、今ほとんどないのではないのでしょうか。もう40年以上前の頃ですが、私達が子供の頃は、林間学校や臨海学校がありました。海のすばらしさも恐ろしさも、森のすばらしさも恐ろしさも学ぶ機会がたくさんありました。身近に海があり、身近に山があり、身近に森がありました。

農業でも漁業でも林業でもそうですが、消費の現場と生産の現場がすごく遠い。そして、なぜ農業を守らないといけないのか、なぜ林業を守らないといけないかということを実感として捉えられていない。これは、大変なことだと思っています。

世界は木の伐りすぎということになっています。一方、日本の場合は、木を伐らなさすぎです。ある意味で、これは贅沢といえれば贅沢なのかもしれません。なぜ日本の木材生産コストというのは、北欧の何倍もするのだろうか。これをどうすれば解決できるのだろうか。原点に立ち返って、色々な施策を総点検をしてみなければいけないと思っています。

国産材でお家を建てたいという人は、たくさんいますが、木材自給率は2割しかありません。法隆寺の五重塔を始めとする色々な建造物は、



原点に立ち返り色々な施策を総点検したい

世界最古の木造建築です。風雪に耐え、千何百年も保ってきた。そして、私達が子供の頃、田舎の大きな家に行くと夏でも冷房一つないのにひんやりと涼しかった。冬は囲炉裏一つ焚くだけで、家が暖かかった。南極の昭和基地の2階3階部分は木造建築でしたが、それは断熱性にもものすごく優れているからです。それでは、省エネという言葉から、どうやって国産材の議論をしていったらいいのかということもやらなければいけません。国産材でお家を建てたいという人はいますが、どこに相談に行ったらいいのかが分からなくては、国産材の家は建つはずはないでしょう。そういうような人のためにナビシステムを立ち上げて、今、色々なアクセスがあるところで、まさしくありとあらゆる知恵を総合して、寄せ集めて、日本のため、そして世界のため、次の時代のために取り組んでいかねばなりません。

今日、お集まりの皆様方に果たしていただいている役割はものすごく大きく、これから先も、国民一人ひとりがなぜ森を守り、森を育てねばならないかという意識を一人ひとり持っていただくために、今日の会合を契機として、さらに運動が広がることを心からお願いいたします。

#### ◇納谷幸喜氏挨拶(第48代横綱大鵬)

私は、美しい森林づくりとどのような関わりがあるかと申しますと、16歳で相撲界に入門したわけですが、北海道弟子屈町という地域で、相撲界に入る前に営林署におりました。その時期は、海拔800mにある阿寒湖・摩周湖等のある山で一日に多くの苗木を植えていました。はじめの一年間は、植えた苗木より、雑草の方が伸びるのが早いんです。日が当たら



なかつたら、みんな枯れてしまいます。植えた苗木を守るために、長い鎌での下草刈りが必要になります。海拔があるため、上ったり下ったりしながら、木を育てていました。ちょうど、戦後の食べ物のない時期で、私は、体重65kgあるかないかの細身で、当時は生きるための糧として大人よりがんばって良く働きました。今思えば、そこで相撲に必要な下半身の強さを、強さというかねばりを備わったようなものです。

あれから50数年経ちましたが、相撲界に入って、それらの木々が今も力強く生きている。2年前、孫を連れて現地に出向き、ここにはじいさんが、若い頃に植えた木がいっぱいある、見てごらんと。いろんな人を見て青々してる、素晴らしいなとみんな思ってるんだよと。寒い北海道では、なかなか木は太くはならないけれど、厳しい冬の寒さを乗り越えて育った木々は、細いながらもたくましく厚みある緑の葉を茂らせて、みんなの目の保養というか、楽しませてくれています。私は、相撲界で残してきた32回の優勝など様々な記録と同様に、この手で増やした緑が私の大事な、大切な財産なんだと思っています。

相撲界に入り、全国各地に足を運んだ際も、緑を見ては、あの苗木を

植えていた日々を思い出し、心を落ち着かせています。幸い、私の自宅の近くでも、美しい公園や庭園があります。緑、森林を増やすための社会づくり、今後も私なりに努力、協力していきたいと思います。

日本の国は資源のない国で、いろんな紙を作るにもどうしても木を伐らないといけない。使い捨てる時代はやめて、やはり大事に大事に使わなければいけないと思います。これはもう、一人ひとりが、心がけなければいけないのです。皆さんのこれからの時代、今日やったからやらなくていいというわけではなく、毎日そういう思いで、皆さんが努力してがんばっていかないと、この島国の日本というのは、あっという間に潰れてしまう。どうか皆さんも協力して、大変でしょうけども、がんばってもらいたい。だから私も協力していきたいと思います。よろしく願います。

#### ◇服部幸應氏挨拶(設立発起人・服部栄養専門学校校長、医学博士)

私もこの美しい森林づくり全国推進会議、非常に感銘しまして、今日は妹と一緒に来ております。

食育基本法という法律ご存じですか。食育って聞いたことある人いますか。私も毎年調べておりますが、今72.2%の人が聞いたことあるよといってくれています。そして、36%くらいの方が私は知っているよと言っています。そこでじゃあ食育ってどういう意味ですかと聞くと、親子料理教室でしょ、もしくは、農業体験じゃないの、というくらいの答しか返ってこなかったです。



食育や「シートゥーシー」を知っていますか？

そこで、食育は森林に関しましても関連があるものですから、今日皆さんにちょっと聞いていただきたい。「食育」には、3つの柱があるんです。

まず1つ目。どんな物を食べたら安全か危険か健康になれるか。私は、中央教育審議会におりまして、この3年間どうしても食育をその学習指導要領に入れたかったですから、入れました。ですから、小学生、中学生の人はこれから憶えていくと思うし、勉強すると思うんですけども、安心、安全、健康を選ぶ能力、これが1つ目。

2つ目。衣食住の伝承。これが家庭でどうも途切れてきてる。昔から食卓で親御さんが子どもさんに、「何で君、姿勢が悪いの」、「なぜ箸が使えないの」、「なぜニンジン残すの」、といったことをみんな言ってきたんですね。ところが今、食卓で家族と一緒に食事をする時間帯というのが昔の1/3しかないんです。1/3の中で、おまけにテレビを見ながら食事をしていて、そういう躰の一番の基本がぽーんと飛んでしまった。私は、警視庁の仕事もしているのですが、平成19年に無差別に人を殺めた人が137件あるんです。これは、20年前の44倍です。何故こんな人達が出てきたかという、食卓できちんと躰を教わらないまま過



ごしてきたからではないかと思うんです。

3つ目の柱が、これが環境問題。そして食糧問題。大量生産、大量消費、そして大量廃棄。まさに、もったいないことしてますよね。この、いわゆるもったいない意識、これは、ケニアの環境副大臣を務めノーベル平和賞をとったワンガリ・マータイさんが、一生懸命日本語で「もったいない、もったいない」とやってくれています。このもったいないというのを、私は3年半前に聞き、どうしてあなたは、「もったいない」って日本語で言うんですか？と聞いてみたら、この中にすばらしい意味があると。リデュース、リユース、リサイクル。そして最近は、4つ目の「もったいない」の意味を言ってくれました。リスペクトだと。全部最初が「R」なんです。私は、この精神の中にシートゥーシー（C2C）という精神が入っているような気がします。

皆さん、「C2C」って知っていますか？

クレイドルトゥークレイドル、いわゆる「C」、それにトゥーは「TO」のはずなんだけど、今それは「2」と書いて、「C」。この運動が、世界的にはこれから進んでいこうとしています。これは、「FROMザクレイドルトゥーザクレイドル」、「ゆりかごからゆりかごへ」。昔は、ゆりかごから墓場までというのがありました。これは、英国の労働党だったかが、社会福祉のために使った言葉ですが、今は違うんですね。この一連の流れの中で、我々資源の決まった地球の中でずっと生きている。そういうときに、永続的に、物を大切にしていかなければいけない。その時に、ただ木を伐採して消費するのではなく、それをまた植えていきましよう。

そこが食育となんで関係があるかということ、今、漁師の人達と接触しているんですけども、実は、「上流の方にもっともっと木を植えてくださいよ」と言ってるわけです。そうすると、木の葉っぱが落ち、これが腐敗しながら腐葉土になる。それが川に流れ込むと、プランクトンを増やすんですね。そのプランクトンが今度、魚介類を増やして大きくしていくというサイクルが綺麗にできているんです。ですから「C2C」という精神を含めてですね、この森林をただ単に見るのではなく、周りにある環境を含め全体が大事なんですよと言いたい。それには、食を通じて、こういう物を見ていくことができるということ、身近なことからも、こういうことを知っていただきたい。



皆さん、「食育」憶えてくれたでしょうか。

ということで、これから、食育を含めて、この森を大切にする心、この運動に私も参加させていただきたいなというふうに思っております。よろしく申し上げます。

※ 「美しい森林づくりニュース」のメールマガジンの配信を始めています。

登録はこちらから → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/mail.html>